



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年11月7日

上場会社名 株式会社うかい 上場取引所 東
コード番号 7621 URL <https://www.ukai.co.jp/>
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）紺野 俊也
問合せ先責任者（役職名）専務取締役（氏名）松崎 城康（TEL）042(666)3333
半期報告書提出予定日 2025年11月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	6,677	3.1	17	△93.0	15	△93.4	△227	—
2025年3月期中間期	6,479	△0.7	255	△41.3	242	△42.2	93	△72.3
	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益					
	円 銭		円 銭					
2026年3月期中間期	△40.62		—					
2025年3月期中間期	16.72		16.72					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	10,262	4,486	43.7
2025年3月期	10,901	4,769	43.7

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 4,485百万円 2025年3月期 4,767百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	15.00	15.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,390	△0.5	495	△31.4	485	△30.7	32	△76.6	5.70

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	5,616,940株	2025年3月期	5,611,540株
2026年3月期中間期	1,443株	2025年3月期	1,443株
2026年3月期中間期	5,611,779株	2025年3月期中間期	5,606,736株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間(2025年4月1日～2025年9月30日)におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が継続するなかで、緩やかな回復基調を維持しております。一方で、米国の金融政策の転換に加え、通商政策の影響による景気の下振れリスクや中国経済の減速懸念が続いております。また、依然として続く物価上昇による個人消費への影響、ウクライナ・中東地域をめぐる地政学的リスク、金融市場の変動による資金調達環境の不安定化など、先行きに対する不透明感は払拭されておらず、引き続き慎重な経営判断が不可欠な状況が続いております。

当社が属する外食産業においては、社会経済活動の正常化が定着するなかでインバウンド需要の拡大が継続し、人流の回復が進んでおります。一方で、慢性的な人手不足による人件費の高騰や原材料価格の上昇が収益構造を圧迫する状況が続いており、価格改定による客単価の上昇は進んでいるものの、価格に敏感な顧客層の離反リスクもあるため、全面的な価格転嫁には慎重な判断が求められます。また、物価高による消費マインドの低下が外食需要の回復に影響を及ぼす可能性があるほか、猛暑などの異常気象の影響により、店舗の立地や業態によって来店動向に差が生じる状況となっており、今後も市場動向を慎重に見極めながら、柔軟な対応力が問われる局面が続くものと考えられます。

このような経営環境のなか、当社は2025年5月に「長期経営構想2035」を発表し、10年後のありたい姿として「多様な食の業態に携わり、永続企業・ブランドを築き、すべての人に笑顔や感動、幸せな時間をプロデュースする」ことを掲げております。その実現に向け、2025年度から2030年度までの5年間で「中期経営計画2030」と位置づけ、新業態の開発および物販事業の拡大を成長の柱としながら、既存のレストラン事業を安定的な収益基盤として活かし、ブランド価値の維持・向上を図っております。

当中間会計期間においては、2025年5月に公表いたしました中期経営計画の実現に向けて、既存事業の収益性向上とともに、人材育成への投資や新たな事業基盤の整備を着実に推進しております。同年4月には、中期経営計画の中核を担う子会社「株式会社UKAIzm corporation」を設立し、既存ブランドとは異なるターゲット層を想定した新業態の開発や食文化を軸としたブランドプロデュース事業を開始しており、社外との連携を通じて、当社の知見を活かした事業展開を進めております。同年5月には、人材育成において、社内教育制度「UKAI Academy」を開講し、鉄板焼の技術・接客・マインドを体系的に学ぶ鉄板コースを通じて、プロフェッショナル人材の早期育成に注力しております。また、同年5月には契約期間満了に伴い『東京 芝 とうふ屋うかい』の2026年3月末での閉店を発表し、同年8月には会社分割(簡易吸収分割)による文化事業『箱根ガラスの森』の承継を決定し、事業ポートフォリオの再構築を図っております。こうした経営環境のもと、当中間会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高は、6,677百万円(前年同期比3.1%増)の増収となり、堅調に推移しました。利益面では、増収効果および原価率の改善により売上総利益が増加しましたが、譲渡資産の賃借に伴う賃借料の増加に加え、店舗退去に伴う原状回復費用の見直し、資産除去債務を追加計上したことにより減価償却費が増加し、営業利益は17百万円(前年同期比93.0%減)、経常利益は15百万円(同93.4%減)と大幅な減益となりました。また、『東京 芝 とうふ屋うかい』の契約期間満了に伴う閉店決定に関連した店舗閉鎖損失引当金239百万円に加え、将来的な収益性を見通しを踏まえた資産の見直しにより減損損失15百万円をいずれも特別損失として計上した結果、中間純利益は227百万円の損失(前年同期は93百万円の純利益)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

〔レストラン事業部〕

社会経済活動の正常化が定着し、外食およびインバウンド需要が堅調に推移するなか、レストラン事業部では、「唯一無二のレストランであり続ける」という方針のもと、料理・サービスの質向上を目的とした施策を継続的に実施しております。各店舗では、ブランドの特色を活かした販促活動を展開し、来店機会の創出に努めるとともに、スタッフが一組一組のお客様に集中して対応する体制を整え、洗練された料理ときめ細やかなサービスの提供に努めております。

お客様の満足度向上を図る取り組みの一環として、一部店舗ではコースや価格の見直しを行い、客単価の上昇につながりました。加えて、空間の質や接客品質の維持・向上を目的として、2025年7月よりサービス料を改定しており、「うかいの時間」の価値を高める取り組みとして客単価の上昇にも寄与しております。さらに、2024年10月に

実施した『あざみ野うかい亭』では、高付加価値化が進み、売上増に貢献したほか、来客数・客単価ともに伸長した店舗も見られました。一方で、2024年11月末に閉店した『うかい竹亭』の影響や一部店舗での来客数減少により減収要因も生じましたが、全体では客単価の上昇が下支えとなり、増収基調を維持しております。

以上の結果、レストラン事業部の売上高は、5,306百万円（前年同期比2.1%増）と増収となりました。

〔物販事業部〕

物販事業部では、主力の製菓部門において、2024年9月に開業した新店『アトリエうかい グランスタ東京』が引き続き好調に推移し、売上への貢献が拡大しております。一方で、2024年8月末に『アトリエうかい たまプラーザ』が閉店した影響に加え、新店の開業より顧客が分散したこと等で、既存店の一部では売り上げが弱含みで推移する場面もありましたが、新店の寄与や催事出店の増加をはじめとする外販の拡大がこれらを補い、製菓部門全体としては増収基調を維持しております。

食物販部門については、オンライン販売および催事出店を継続して展開しておりますが、催事出店の機会が限定的であったこと等により、前年同期比では減収となりました。

以上の結果、物販事業部の売上高は、818百万円（前年同期比8.5%増）と増収となりました。

〔文化事業部〕

文化事業部では、『箱根ガラスの森』にて、2025年4月19日から7月13日までの会期にて、2025年初夏所蔵作品展「19世紀のヴェネチアン・グラス ―しなやかな造形―」を、また同年7月18日からは2025年特別企画展「軌跡のきらめき 〜神秘的の光彩、ガラスと貝細工〜」を開催いたしました。これらの作品展を柱に、季節の移ろいに合わせクリスタルガラスの展示替えや様々な企画を展開し、多くのお客様にご来館いただけるよう、細やかなプロモーション活動や旅行会社をはじめとする企業への営業の強化を進めてまいりました。これらの営業施策の効果による安定した集客に加え、訪日外客数の伸長を背景に外国人観光客の取り込みも堅調に推移し、来館者数は前年同期比で伸長いたしました。

以上の結果、文化事業部の売上高は、552百万円（前年同期比4.7%増）と増収となりました。

（2）財政状態に関する説明

当中間会計期間末における資産、負債及び純資産の状態は以下のとおりであります。

（資産）

当中間会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ638百万円減少し、10,262百万円（前事業年度比5.9%減）となりました。主な要因は、資金運用により有価証券が1,000百万円増加した一方で、現金及び預金が1,491百万円、売掛金が143百万円、有形固定資産が119百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（負債）

当中間会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ356百万円減少し、5,775百万円（前事業年度比5.8%減）となりました。主な要因は、店舗閉鎖損失引当金が209百万円、流動負債および固定負債に含まれる資産除去債務の純増加額186百万円がそれぞれ増加した一方で、取引金融機関からの借入金の総額が270百万円、その他流動負債が435百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ282百万円減少し、4,486百万円（前事業年度比5.9%減）となりました。譲渡制限付株式報酬としての新株式発行に伴い資本剰余金が19百万円増加したのに対し、配当金の支払いおよび中間純損失の計上により利益剰余金が312百万円減少したこと等によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の通期業績予想につきましては、2025年5月19日付の「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」で公表の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2025年11月7日）公表いたしました「2026年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,413,926	3,922,092
売掛金	722,577	579,143
有価証券	—	1,000,000
商品及び製品	182,708	197,212
仕掛品	28,008	38,213
原材料及び貯蔵品	339,308	328,063
その他	189,944	162,105
貸倒引当金	△15	△12
流動資産合計	6,876,459	6,226,818
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,818,420	7,728,958
減価償却累計額	△6,608,173	△6,666,879
建物(純額)	1,210,247	1,062,078
土地	568,897	568,897
建設仮勘定	20,845	62,381
美術骨董品	195,849	195,849
その他	3,361,396	3,273,145
減価償却累計額	△3,051,892	△2,976,077
その他(純額)	309,504	297,068
有形固定資産合計	2,305,344	2,186,276
無形固定資産	39,219	33,511
投資その他の資産		
投資有価証券	136,230	156,423
関係会社株式	—	10,000
繰延税金資産	510,331	608,680
敷金及び保証金	1,016,928	1,023,628
その他	16,721	17,059
投資その他の資産合計	1,680,210	1,815,790
固定資産合計	4,024,774	4,035,577
資産合計	10,901,234	10,262,396

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	286,481	264,973
短期借入金	750,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	241,420	229,465
未払法人税等	122,573	93,249
賞与引当金	130,403	122,521
店舗閉鎖損失引当金	30,012	239,022
資産除去債務	52,815	—
その他	1,435,539	999,698
流動負債合計	3,049,244	2,548,931
固定負債		
長期借入金	1,493,255	1,384,500
退職給付引当金	1,204,818	1,217,506
資産除去債務	384,900	624,470
固定負債合計	3,082,974	3,226,477
負債合計	6,132,218	5,775,408
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,891,811	2,911,035
利益剰余金	1,745,891	1,433,763
自己株式	△3,409	△3,409
株主資本合計	4,734,293	4,441,389
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	33,487	44,364
評価・換算差額等合計	33,487	44,364
新株予約権	1,234	1,234
純資産合計	4,769,015	4,486,987
負債純資産合計	10,901,234	10,262,396

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	6,479,196	6,677,337
売上原価	2,858,044	2,780,902
売上総利益	3,621,152	3,896,434
販売費及び一般管理費		
販売促進費	125,863	127,593
役員報酬	84,555	94,305
株式報酬費用	3,627	8,936
給料及び手当	1,116,107	1,156,136
賞与引当金繰入額	74,110	76,962
退職給付費用	35,142	40,001
福利厚生費	193,337	193,090
水道光熱費	143,796	125,616
消耗品費	123,067	117,906
修繕費	87,689	84,082
衛生費	118,039	119,768
租税公課	40,253	33,160
賃借料	420,231	532,697
減価償却費	147,034	424,916
その他	652,417	743,325
販売費及び一般管理費合計	3,365,273	3,878,500
営業利益	255,879	17,934
営業外収益		
受取利息	2,519	7,064
受取配当金	1,217	4,963
その他	8,824	10,865
営業外収益合計	12,562	22,893
営業外費用		
支払利息	19,952	18,805
その他	6,204	6,103
営業外費用合計	26,156	24,908
経常利益	242,285	15,919
特別損失		
固定資産除却損	2,091	1,886
減損損失	2,176	15,453
店舗閉鎖損失	—	1,423
店舗閉鎖損失引当金繰入額	38,826	239,189
特別損失合計	43,094	257,953
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	199,190	△242,034
法人税、住民税及び事業税	19,653	90,045
法人税等調整額	85,765	△104,103
法人税等合計	105,418	△14,057
中間純利益又は中間純損失(△)	93,771	△227,977

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	199,190	△242,034
減価償却費	203,080	452,356
退職給付引当金の増減額(△は減少)	32,068	12,688
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	38,177	209,010
受取利息及び受取配当金	△3,737	△12,028
支払利息	19,952	18,805
固定資産除却損	2,091	1,886
減損損失	2,176	15,453
売上債権の増減額(△は増加)	209,877	143,434
棚卸資産の増減額(△は増加)	△25,966	△13,204
仕入債務の増減額(△は減少)	△53,328	△21,507
未払消費税等の増減額(△は減少)	△17,273	△216,524
その他	△86,288	78,688
小計	520,021	427,024
利息及び配当金の受取額	1,237	6,045
利息の支払額	△19,706	△18,476
保険金の受取額	—	43
法人税等の還付額	306	—
法人税等の支払額	△17,177	△119,370
営業活動によるキャッシュ・フロー	484,681	295,267
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△1,300,000
有形固定資産の取得による支出	△85,492	△167,764
関係会社株式の取得による支出	—	△10,000
その他	△11,907	△62,809
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97,399	△1,540,573
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△250,000	△150,000
長期借入金の返済による支出	△108,710	△120,710
預り保証金の純増減額(△は減少)	51,470	△187,004
配当金の支払額	△94,655	△83,901
その他	△10,541	△4,911
財務活動によるキャッシュ・フロー	△412,437	△546,527
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△25,155	△1,791,834
現金及び現金同等物の期首残高	1,817,367	5,413,926
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,792,211	3,622,092

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、会社法第447条第3項の規定に基づき、2025年6月27日開催の取締役会決議により同年8月5日付で資本金の額の減少を実施しており、資本金9,612千円をその他資本剰余金に振り替えております。

また、2025年6月27日開催の取締役会決議に基づき、同年8月5日付で当社の取締役(社外取締役を除く。)に対する譲渡制限付株式報酬として新株式の発行を行っており、資本金及び資本準備金が9,612千円それぞれ増加しております。

この結果、当中間会計期間末において、資本金は100,000千円、資本剰余金は2,911,035千円となっております。

(会計上の見積りの変更)

(資産除去債務の見積りの変更)

店舗の原状回復義務として計上していた資産除去債務について、退去時に必要とされる原状回復費用の新たな情報を入手したことにより見積りの変更を行いました。見積りの変更による増加額を変更前の資産除去債務残高に237,749千円加算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間 損益計算書 計上額 (注)2
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,196,991	754,277	527,928	6,479,196	—	6,479,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,196,991	754,277	527,928	6,479,196	—	6,479,196
セグメント利益	731,146	23,197	68,929	823,273	△567,393	255,879

(注) 1. セグメント利益の調整額△567,393千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	
減損損失	—	2,176	—	2,176

当中間会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間 損益計算書 計上額 (注) 2
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,306,534	818,299	552,503	6,677,337	—	6,677,337
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	5,306,534	818,299	552,503	6,677,337	—	6,677,337
セグメント利益	585,441	50,636	14,697	650,775	△632,841	17,934

(注) 1. セグメント利益の調整額△632,841千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			合計
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	
減損損失	15,453	—	—	15,453